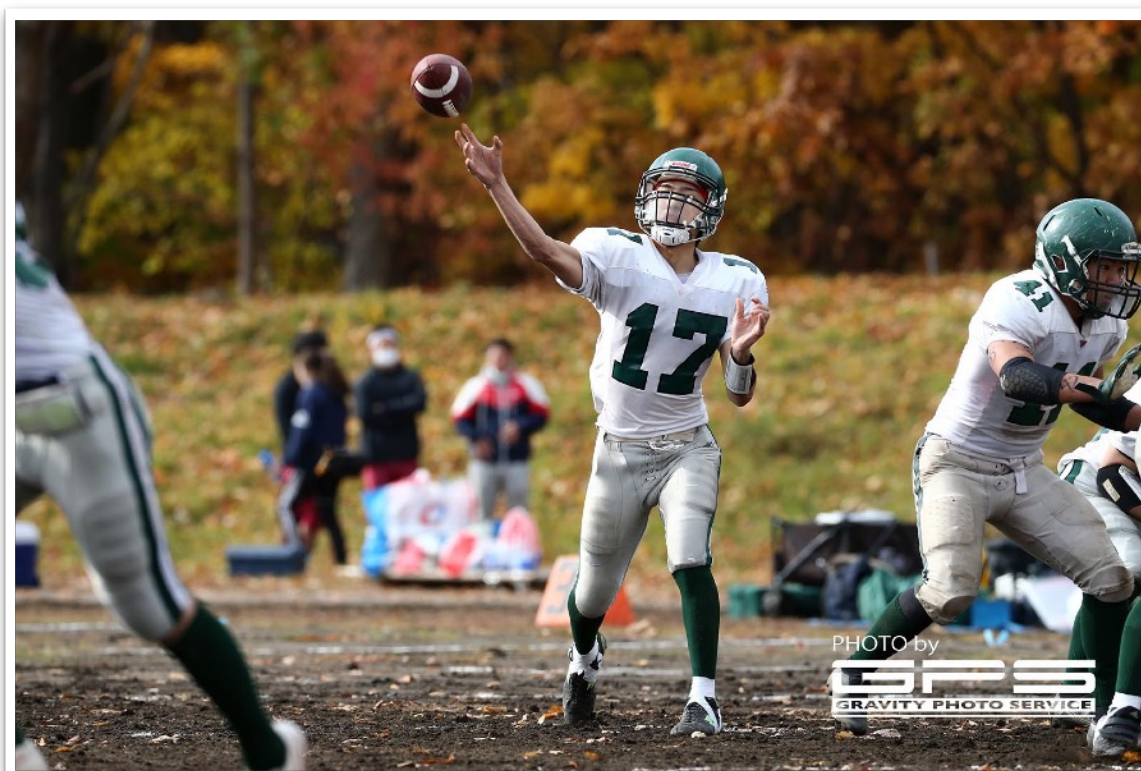


第47回北海道学生選手権は最終節の31日、札幌市豊平区の札幌大グラウンドで、1、2部入れ替え戦と、部員不足で選手権を棄権した2校の選手を交えた学生と社会人合同の交流戦を行った。入れ替え戦は2部優勝の東京農業大（網走）が1部最下位の室蘭工業大を29-0で下し、15年ぶりの1部復帰を決めた。



東京農業大は第2Q3分、QB金井康晴（2年、神奈川・舞岡高）がWR杉山日向（4年、神奈川・大船高）へ25ヤードのTDパスを投じて先制し、同8分にはWR五ノ井高太（4年、福島・若松商高）へ14ヤードTDパスを決めた。第3Q2分にもWR杉山へ2本目のTDパスを投げると、同Q終了間際には25ヤードのFGも決めた。最終QにもWR五ノ井へ2本目のTDパスを決めた。室蘭工業大はRB富樫司（1年、札幌清田高）とRB川上竜輝（4年、士別翔雲高）が力走を見せ、DL原田耕太（4年、北見北斗高）がロスタックルを決めたが、東京農業大の勢いを止められなかった。

東京農業大の朝倉弘之監督は「来年はラインのスキルを上げ、少数精鋭で1部に食らいついていく」と選手たちの成長に期待。QB金井は「TDパスは4年生WRが捕ってくれたおかげ。1部でも投げて走って、全試合を勝ちに行きたい」と決意し、主将のWR西村祥紀（4年、東京・錦城高）も「コロナ禍で廃部の危機に見舞われたが、1、2年生を勧誘してここまでやれた。来年は1部で全道制覇を目指してほしい」と後輩たちに熱いエールを送った。

交流戦は、選手権を棄権した札幌学院大と札幌大の選手に試合の機会を提供しようと学連が企画し、社会人連盟の協力で実現した。試合は札幌大・北海道医療大・北海道科学大・クルムスイーグルス・札幌ベンガルズ・北海道ブルズの合同チームが、札幌学院大・北星学園大・北海道ライズの合同チームを38-12で下した。

札幌学院大は8人、札幌大は4人が出場し、選手権では1試合で終わった北星学園大は14人、北海道科学大は10人、北海道医療大は3人が参加した。OLとDLで奮闘した札幌学院大の慶井莞治主将（4年、札幌龍谷高）は「みんなで試合ができてうれしかった。攻守の両方



に出ると決めていた。来年は部員を大勢勧誘して、試合にも多く勝ってほしい」と後輩たちに復活を託した。DLで猛チャージを見せた札幌大の今橋佑輔主将（4年、茨城・茗溪学園高）も「ラインは1人だけだったので基礎練習とイメージトレーニングだった。いろんな人の助けで試合ができて良い思い出になった。来年は人数を増やしてほしい」と願った。

また、1 TD、1 インターセプトと1 部校の貫禄を見せた北星学園大のWR北野啄夢主将（4年、旭川南高）は「下級生にも良い経験になった。来年はパインボウルに出場できるように頑張してほしい」、TDキャッチを決めた北海道医療大のWR小池知成（2年、東京・開成高）は「ベンガルズのQBのおかげでいいところにボールを落としてもらった。実戦2試合目で初TDなので自信になる」と収穫を強調していた。